



高知県

第 53 号 2008 年 10 月

農業技術センターニュース

目		次	
	ショウガ紅色根茎腐敗病の寄主範囲	… 1	 ニガウリの促成栽培に適する品種および株間 … 4
	タバココナジラミの土着天敵コミドリチビトビカスミカメ	… 2	 ハウスの温度管理と省エネルギー効果 … 5
	シュンギクの農業残留濃度、予測できる？	… 3	 県育成早期水稻品種・系統の初期耐冷性 … 6

ショウガ紅色根茎腐敗病の寄主範囲

表 1 寄主範囲

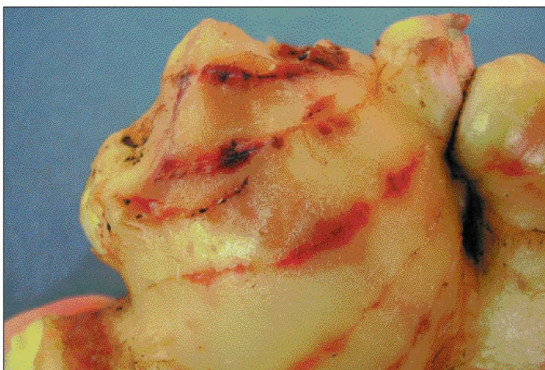


写真 ショウガ紅色根茎腐敗病の病徴

供試植物	寄生性 ^{a)}	病 徴
メロン	+	根の赤変、茎葉および根の生育抑制
トマト	+	根の赤変
台木用トマト	+	根の赤変、茎葉の生育抑制
ニラ	+	根、鱗茎の赤変、茎葉および根の生育抑制
ネギ	+	根、茎盤、鱗茎の赤変
リンドウ	—	—
グロリオサ	+	根、茎盤の赤変

a) 寄生性 +:あり、—:なし

ショウガ紅色根茎腐敗病は、2000年11月に高知県西部の露地ショウガで初めて発生が確認されました。罹病すると、収穫時および貯蔵中に根茎表面が赤色を呈し、内部が褐色水浸状に腐敗します。病原菌は*Pyrenochaeta terrestris*です。2007年7月に高知県内出荷場で発生調査を行ったところ、低率ながらほとんどの出荷場で本病害の発生が確認されています。今回は、病原菌の寄主範囲について調べました。

既に*P. terrestris*による病害が報告されているメロン、トマト、台木用トマト、ニラ、ネギ、グロリオサ、リンドウをショウ

ガより分離した菌で汚染させた土壌へ移植したところ、リンドウを除く各植物に地下部の赤変や生育抑制がみられ、寄生性が確認されました（表1）。このことから、本病害の発病歴のある圃場でメロン、トマト、ニラ、ネギを栽培する場合には十分な防除対策を講じる必要があります。

今後は、伝染経路や発病時期を明らかにし、効果の高い防除法について検討する予定です。

(病理担当 山崎睦子 088-863-4915)